

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 11月号 (NO55)

2014年11月10日(月)発行(毎月10日)

【農暦】 自家産のメニューにはビックリ!

○今日(4日)、昼食を取りながら食卓の食材が気になった。畑からの収穫物が最近ないことが普通になっていたからである。菊(モッテノホカ)、カボチャ(南部一郎)、マイクロと極甘ミニトマト、黒豆、番外編のジャワハウレン草と5種類もあった。凄く豊かな気分である。黒豆は昨年のものだが、笠間の畑のものである。栽培努力の評価が5点評価では最低の1でしかないと考えているので、今日の自家産のメニューにはビックリした。

○江戸時代では流通した野菜は漬物用の大根くらいで武家や商家では裏庭(畑)などで野菜栽培をしていたとか、新鮮野菜は野摘みがベースであったとかと、聞いたか読んだか定かではないが記憶がある。流通や保存技術が未発達であった事を考えれば想定される事である。この様に考えれば、今は、野摘みは難しいが、荒れた畑からでも食卓を豊かに出来るのだと思った。今、庭で野菜を作る人が多くなっているようで、柏の御近所さんの庭からトマトの赤い実がよく目撃される。バーチャルでも「Kogure 農場」と呼称しているので、恥かしくなるが、今年の初夏に、私の畑では採れていない立派なキュウリと茄子を御近所さんから頂いた。食べきれない程採れると云う。



<庭の花>自然になすがままの柏の小さな庭で、元気に拡張して咲く花。9日撮影

○造園の仕事をやられている奥様が柏の友人と2度ばかり一緒に来られた時の話で、庭で野菜を作りたいと希望するお客さんが多く勉強したいと話されていた。私の所では参考にならないと思ったのでガルデンも見学してもらった。都心のマンションのベランダで野菜作りしていた友人もいる。柏では、生ゴミの堆肥化講座を続けているが野菜作りの質問が多い。都市化が進んだある時点から“土(農)” 帰りが起こっているようだ。一時は忘れても、この二ーズは一貫してあるのかも知れない。自家産のメニューには豊かな気分になれる。健康食の点でもハナマルである。マイナス思考が常になっていたので、久しぶりに豊かな気分食卓を楽しめた。

○立冬(7日)で、いよいよ寒くなって来たと思ったら、今日(10日)は少し歩くと汗ばむ陽気である。寒さへの順応が逆戻りの感じがする。のんびりしていいのかと思いな

がら、寂しくなって来ている庭にと、冬の花に入れ換わった園芸店からビオラとパンジー
を買い求めて来た。明日から笠間に戻り里芋や黒豆の収穫、荒れている畑の片付けなど作
業のあれこれを考えている。今年も2カ月を切ってしまうのである。

【楽農】カボチャの大収穫！

<ハウス> ; トマトの収穫 (元気だが最後か)

<畑A> ; トマト、ネギ、菊の収穫 (小量)

<畑B> ; 小豆、金時、カボチャ、里芋 (数株)
の収穫、トラクターで一部耕起。

*カボチャ南部一郎は1株で約200個と大収穫。
トマト、カボチャの出荷。



<カボチャ・南部一郎>日本古来種の鶴首カボ
チャ。草にも負けず大量収穫された。甘くホク
ホクで美味しく頂く。6日撮影

【つぶやき=Tweet】農作業にも旬があるとの話！

○ボヤキに近い農作業の遅れの話が多く自分でも嫌だなど思うことが多くなっている。そ
んな時に那須で菜園をやられているKさんが来訪された。鍋を肴に酒を酌み交わしながら、
いろいろな話を深夜近くまでした。その中の一つの話で**農作業にも旬がある**との話があ
った。旬の食材は美味しい。タイミングを逸した農作業は、作業性(効率)が悪い。生育
に良い効果が出ない。気力や健康に良い筈のものが、旬を外すことで逆効果を生じる。旬
でない農作業は美味しくないのである。最近の私の農的生活が自家中毒症を起しているの
ではと思う事が時々あるので、Kさんのこの言葉に反応してしまった。

○旬と云えば、人生にも、男にも、女にもある。“諦め”や“中性化”の表われは旬でなく
なった事の証明である。8月号で紹介した散文詩の「青春」(サミエル・ウルマン)ではな
いが、旬は年齢だけではない。老いて魅力ある人もいる。だが、一般には加齢(時間の経
過)により失われる。個人差があるが、男女共60代までで、60代を過ぎて輝いている人は
少ない。健康で知性のある人間味が豊かな人だけが、旬を長持ちさせる特権を得る。エゴ
や我執も旬とは馴染まない。“必殺仕事人の山田五十鈴”の**女の色気**には虜にさせるもの
がある。山田五十鈴のシーンだけで価値がある。年老いても女の魅力を感じさせる人がいる。
この限りにおいて女の旬である。旬から美女の話になるが、**美女は3日**で飽きると云われ
る。美とは形だけではない内面が外形以上に意味を持つと、思いたかった10代のころ、ノ
ートルダムの子供に自分を擬した事が思い出された。“美女の3日”に泣かされる。こ
れが実の人生なのかも知れない。演出だと思いつつも、60代を遥に超えていた山田五十

鈴の色気には女の匂以上の魅力があった。匂の言葉の意味の類似から拡散させてしまったが、匂の農作業が出来るかどうかは、単にタイミングだけではない様な気がする。匂の農作業は、農業技術の高い篤農家に通じるものがある様に思う。

○匂の話から更に飛躍になりそうだが、美しい景観には魅力がある。スイスに行った時、チョットした小屋も絵になっていると感じた。ハイジのアニメではないが、窓辺の花は定番である。ガイドに聞いたら自然発生的にどの家でもそうしていると云う。比べる話ではないが、日本の水田は美しいといつも思っている。

子供の頃に見た、故郷の菜の花と麦の美しい田園の景観が今でも脳裏に鮮明に残っている。景観として“美しい畑”にしたいとの思いは、農的生活を始めた時からあったのだが、目の前の畑は美しくない。オイヌノフグリの花とホトケノザの刈りとりを躊躇してしまう。農作業の妨げになるだけで、美しい畑には繋がらないのに、幼稚過ぎる事を毎年してしまう。草の繁茂力に負けるキッカケを作るだけである。チグハグなものを感じながらやってしまう。

○いろいろな匂を大切にしたいが難しい。匂の農作業を心懸けることで、美しい畑に、農的生活も新鮮な匂にと、酒量が過ぎてはないのだが、酒酔いの夢は拡がり、山田五十鈴の色気にまで繋げてしまった。また何か出来そうな気になって来る。楽しい時間が持てたことをKさんに感謝したい。

○先日(4日)元会社の友人からメールを貰った。“9日まで読書週間ですが、文化庁の調査では2人1人は1カ月に1冊も本を読まないと答えているそうです。<略>ところで先日次の様な本があると聞きましたので参考までにお知らせします。”と“題名;「ベスト珍書」、発行元;中央公論社、概要;日本では毎年本が8万冊刊行されていて13年分100万冊をチェックしてその中でヤバイ・すごいと感じた百冊を厳選している。怪書・エログロ・発禁本など共通するのは「珍」ということです。一例として「円周率100万桁表」牧野貴樹著を挙げている<略>”。と書かれていた。返信のメールを、“本の情報興味深く拝読致しました。私の読書の量は圧倒的に少なく人生を貧しくしたと反省しています。もう少し読んでいけばもっと豊かになれたのではと後のまつりになってしまいました<略>0さんの情報のセンス?をいつも楽しませて頂いています<略>”と、読書にも匂がある事を思いながら送信した次第である。今回もまた思いつくままに書いてしまった。

【後記】

紅葉が素晴らしいです。枯れ葉が舞う。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<トマト>今年最後の収穫か。この赤い色は何とも言えない。8日撮影

発行者; Kogure農場・小暮虎雄

住所; 笠間市本戸4201-10

携帯電話; 090-9333-4135

メール; torao-k@nifty.ne.jp

HP; <http://homepage3.nifty.com/toragigi/>